

# なるほどよくわかる 病気あれこれ

## 【第62回】大腿骨頸部骨折と転子部骨折

近年の高齢者人口の増加に伴いその発生件数が増えつつある骨折です。ご存知の方も多いと思いますが、ふとももの骨（大腿骨）の上端部分の骨折です。図A、Bを参照してください。

発生原因の主たるものは転倒転落ですが、もともと骨脆弱性の強い頸部骨折の一部では明確な外傷がない場合もあるようです。

疼痛も強く、起立歩行困難となるこの骨折には、早急の診断と治療が必要となります。診断はX線撮影でほぼ可能ですが、不全骨折もありMRIが必要となることもあります。また、手術を予定した時にはCT検査も加え、詳細な骨折状態の把握が必要と思われます。

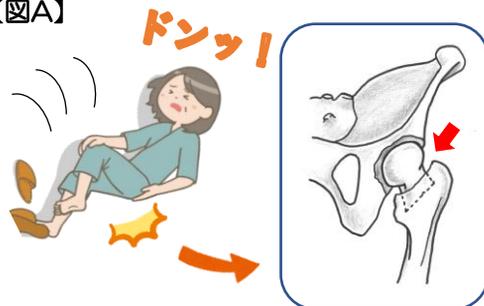
手術ですが、主に、頸部骨折には人工骨頭または骨接合術、転子部骨折には骨接合術が行われます。最近は固定器具や手術法・手技の改良などにより早期（受傷翌日のこともあるようです）に手術が行われ、その経過もおおむね良好で術後翌日からリハビリを始めているケースもあります。

当院では、手術を実施している函館市内の数カ所の病院と連携して、術後のリハビリ治療を行っております。

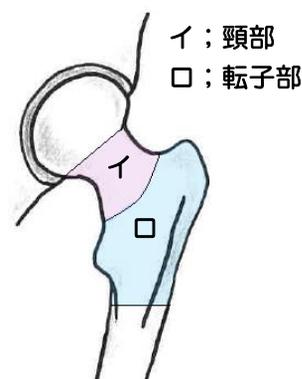
「連携パス」と名付けて、あらかじめ治療スケジュールを作成しております。手術した病院では約2週間、当院では6週間の入院期間を見込んで、リハビリと各部門で協力して治療にあたっております。（過去3年で約60件の受け入れをしています。）

このように治療体制はほぼ確立されてきたようですが、やはり、予防に力点をおかなければなりません。例えば、適度の運動、日常生活動作を出来るだけ自立で行う、生活環境の改善、バランスのとれた栄養摂取、さらに、より積極的治療としての骨粗鬆症治療薬の利用などです。

【図A】



【図B 大腿骨近位部】



整形外科 黒川 絃二

## 一 包 化 に つ い て

一包化とは、服用するタイミングが同じお薬（例えば朝・昼・夕食後ごとに）を1回分ずつまとめて袋に入れることです。当院では一包化された袋に「患者さまのお名前」「いつ服用するか」「入っている薬の薬品名」を印字しています。

1回に飲むお薬が沢山あって、飲み間違えたり紛失する可能性がある方、シートから薬を取り出すことが難しい方に一包化は適しています。

なお、薬の種類によっては一包化できないものもあります。また、当院では毎日服用しない下剤や食事摂取状況によって中止する可能性がある糖尿病薬は通常一包化していません。

一包化するには、1回分ずつ袋に入れるため多少時間がかかることがあります。時間がかかる場合には事前にお声がけさせていただいております。後からお薬を取りに来られることも可能です。

一包化をご希望の方は是非医師や薬剤師へご相談ください。

薬剤科 薬剤師 盛川 佳那子

